

## ■ 第11回 多摩川流域セミナー

### みんなで育てよう！多摩川流域リバーミュージアム Part2

主催：多摩川流域懇談会

#### ● 日時

・・・ 2002(平成14)年3月17日(日) 13:30～16:30

#### ● 場所

・・・ 府中市勤労福祉会館 第1洋室

府中市矢崎町1-16 JR武蔵野線・南部線「府中本町駅」徒歩5分

#### ● 内容

・・・ 多摩川流域リバーミュージアム(TRM)は、多摩川流域全体を博物館ととらえ、流域の自然や水の歴史・文化など、誰もが多摩川の持つ価値を共有・学習できるしくみを目指すもので、昨年7月に狛江・宿河原地区で試行が始まりました。

今後流域全体への展開を目指して、市民や自治体などが協働で取り組むプロジェクトとして期待されています。

前回のセミナーでは合意されたように、活動を具体化して、いいものをつくり上げていくためには、「TRMに望むこと」をテーマとした意見交換を継続・発展させていくことが欠かせません。

さあ、みんなで「流域まるごと博物館」を実現しようではありませんか！

#### ・・・ 開会

挨拶：井田 安弘(多摩川流域懇談会運営委員)

#### ・・・ 話題提供「リバーミュージアム計画・・・経過報告と今後の見通し」

京浜工事事務所・TRM検討懇談会(市民メンバー)より

#### ・・・ ディスカッション「TRMへの期待」

コーディネーター：高坂 徹(多摩川流域懇談会運営委員/ニヶ領用水の再生を考える市民の会)

#### ・・・ その他の話題提供

水流解明キャラバンについて・多摩川市民フォーラムからの提案・ほか

#### ・・・ 閉会

川口 丸雄(多摩川流域懇談会運営委員/京浜工事事務所副所長)

## ■ 第11回 多摩川流域セミナー 開催報告

みんなで育てよう！多摩川流域リバーミュージアム

主催：多摩川流域懇談会

平成14年3月17日(日)13時30分から第11回多摩川流域セミナー(主催：多摩川流域懇談会)を、府中市勤労福祉会館で約50名の市民、行政関係者等の皆様にご参加いただき開催いたしました。

テーマは「みんなで育てよう！多摩川流域リバーミュージアム(TRV) Part」として、京浜工事事務所と市民側から話題提供を行い、これをもとに後半のディスカッション「TRMへの期待」において、これからのTRMについて活発な議論を行いました。

話題提供「リバーミュージアム計画・・・経過報告と今後の見通し」

- 京浜工事事務所 河川環境課 地域連携係長 石田
  - ・ 多摩川流域リバーミュージアム(TRM)計画の中間報告と今後の予定
  - ・ 「最終的には地域・市民の主体的な活動でTRMを運営していきたい」など
- TRM狛江・宿河原地区検討懇談会の市民メンバーのみなさま(5名)
  - ・ 新年度より本格化する総合的学習に対する支援を充実させたい。
  - ・ ワールドカップ開催の機会を活かした取り組みをしよう。
  - ・ パソコン等よりも多摩川の自然や人間同士がふれあう機会を増やしたい。
  - ・ 問題点や必要性を共有することが重要だ。
  - ・ 試行期間の目標をきちんと定めて取り組みたい。
  - ・ TRMを市民活動の救急箱のような存在に。
  - ・ 子どもたちが自分の肌で生命の大切さを感じることが出来る体験活動を充実させたい。



などの多くの提案があり、京浜工事事務所から目標として「皆さんの活動をネットワークしてより活発にしていく為にTRMを活用していきたい」と示しました。

ディスカッション「TRMへの期待」

ディスカッションでは、これからのTRMについて議論し、次のようなご意見をいただきました。



- ・ 講師への謝礼等、人件費の財源をきちんと確保しなければならない。
- ・ その目安や助成制度が必要だ
- ・ 経費は流域自治体や民間も負担していくことが必要だ

- ・ TRMに関わる様々な立場の人びとからなる推進委員会を設けて、真にパートナーシップで運用していくべきだ
- ・ 市民ボランティアの力でTRMを支えていくことが重要だ
- ・ 川に関わる様々な分野から協力者を集めて、早く人材ネットワークを築きたい
- ・ 学習活動や観察会の際にリーダーとして活躍できるような人材を育成することが重要だ
- ・ いつまでも行政に頼らず、市民が自立していくことが重要だ
- ・ 講師等の財源の問題も重要だが、これまでのTRMの試験運用には、地域的、視野構造的限界があり、流域まるごと博物館とするにはほど遠い。試験期間の折り返し点にあたり、あと半年の試験期間は、そういった限界を克服した、広域的、広領域的課題の抽出が必要である。
- ・ TRMでも合流式下水道の改善に取り組むべきだ
- ・ 思想郷づくりを考えるだけでなく、多摩川の姿を次世代にきちんと伝えていくことが重要だ
- ・ 流域というからには本川だけでなく、支流や堤内地にも活動の輪を広げていきたい
- ・ 京浜工事事務所だけでなく関係する行政全体が主体的に参画することが重要だ
- ・ 多摩川流域懇談会を単なる議論の場としてではなく、話し合ったことをきちんと反映させる事ができる存在にすることが重要だ
- ・ TRMの財源は税金を使って、みんなの生活に還元していくべきだ
- ・ TRMを市民の玉手箱に

その他、京浜工事事務所から「水流実態解明プロジェクト」の報告、人材登録の募集、市民フォーラムからは行事の提案や放流魚問題のシンポジウムの案内などがありました。

---

今後、試行期間中に多くの議論を重ね、リバーミュージアムの方向性を見いだしていきたいと思っております。パートナーシップがより重要となっていきます。

京浜工事事務所と致しましても、情報の提供などを行っていきたいと思います。